

題字 浜名一雄

遠征計画について



海外登山研究会

委員長 小暮勝義

高きを求める魂の喜び、未知への探求、自己の限界への挑戦と、それらを山に求める若者達。云々、これは嶺岳、創刊号、での浜名岳連会長文の一つであります。まさに、その若者達の集まりである海外登山研究会も、発足してから八年目に入り、何と年月の立つのは早いものかと思う昨今であるが、この八年の間にめざましい変化をとげる事が出来た。発足当時はその経験者は無に等しかったものであるが、一九七二年の岳連タウラギリ遠征を皮切りにして毎年のように、遠征隊への参加、又はトレッキングに出掛け、まさに、身近なヒマラヤ、となりつつあります。

また、その若者達の集まりである海外登山研究会も、発足してから八年目に入り、何と年月の立つのは早いものかと思う昨今であるが、この八年の間にめざましい変化をとげる事が出来た。発足当時はその経験者は無に等しかったものであるが、一九七二年の岳連タウラギリ遠征を皮切りにして毎年のように、遠征隊への参加、又はトレッキングに出掛け、まさに、身近なヒマラヤ、となりつつあります。

三年前よりタウラギリIV峰に続く二回目の遠征を計画しようとの声がかかりすぎる点、経験者が少ない点等再びネパールの山へ目が向けられ、いくつかのピークが目標として上げられる中で、エベレストの西に隣るギヤチュン・カヌン(七九三二m)が、第一目標となった。通称「岩の城」と呼ばれるこの山は美しく、山容で、他の山と比較にならないほど魅力を引き付けてしまった。過去一九六四年全岳連隊が初登頂に成功した功、一九七五年のタウラギリIV峰では、七二年の岳連隊から続き参加した八木原團明はその成功への道を開いた。そして本年日山協K2登山隊へも、鷗翔上越支部、宇部明が参加して近々日本を出発の子定となつております。

三年前よりタウラギリIV峰に続く二回目の遠征を計画しようとの声がかかりすぎる点、経験者が少ない点等再びネパールの山へ目が向けられ、いくつかのピークが目標として上げられる中で、エベレストの西に隣るギヤチュン・カヌン(七九三二m)が、第一目標となった。通称「岩の城」と呼ばれるこの山は美しく、山容で、他の山と比較にならないほど魅力を引き付けてしまった。過去一九六四年全岳連隊が初登頂に成功した功、一九七五年のタウラギリIV峰では、七二年の岳連隊から続き参加した八木原團明はその成功への道を開いた。そして本年日山協K2登山隊へも、鷗翔上越支部、宇部明が参加して近々日本を出発の子定となつております。

三年前よりタウラギリIV峰に続く二回目の遠征を計画しようとの声がかかりすぎる点、経験者が少ない点等再びネパールの山へ目が向けられ、いくつかのピークが目標として上げられる中で、エベレストの西に隣るギヤチュン・カヌン(七九三二m)が、第一目標となった。通称「岩の城」と呼ばれるこの山は美しく、山容で、他の山と比較にならないほど魅力を引き付けてしまった。過去一九六四年全岳連隊が初登頂に成功した功、一九七五年のタウラギリIV峰では、七二年の岳連隊から続き参加した八木原團明はその成功への道を開いた。そして本年日山協K2登山隊へも、鷗翔上越支部、宇部明が参加して近々日本を出発の子定となつております。

三年前よりタウラギリIV峰に続く二回目の遠征を計画しようとの声がかかりすぎる点、経験者が少ない点等再びネパールの山へ目が向けられ、いくつかのピークが目標として上げられる中で、エベレストの西に隣るギヤチュン・カヌン(七九三二m)が、第一目標となった。通称「岩の城」と呼ばれるこの山は美しく、山容で、他の山と比較にならないほど魅力を引き付けてしまった。過去一九六四年全岳連隊が初登頂に成功した功、一九七五年のタウラギリIV峰では、七二年の岳連隊から続き参加した八木原團明はその成功への道を開いた。そして本年日山協K2登山隊へも、鷗翔上越支部、宇部明が参加して近々日本を出発の子定となつております。

三年前よりタウラギリIV峰に続く二回目の遠征を計画しようとの声がかかりすぎる点、経験者が少ない点等再びネパールの山へ目が向けられ、いくつかのピークが目標として上げられる中で、エベレストの西に隣るギヤチュン・カヌン(七九三二m)が、第一目標となった。通称「岩の城」と呼ばれるこの山は美しく、山容で、他の山と比較にならないほど魅力を引き付けてしまった。過去一九六四年全岳連隊が初登頂に成功した功、一九七五年のタウラギリIV峰では、七二年の岳連隊から続き参加した八木原團明はその成功への道を開いた。そして本年日山協K2登山隊へも、鷗翔上越支部、宇部明が参加して近々日本を出発の子定となつております。

三年前よりタウラギリIV峰に続く二回目の遠征を計画しようとの声がかかりすぎる点、経験者が少ない点等再びネパールの山へ目が向けられ、いくつかのピークが目標として上げられる中で、エベレストの西に隣るギヤチュン・カヌン(七九三二m)が、第一目標となった。通称「岩の城」と呼ばれるこの山は美しく、山容で、他の山と比較にならないほど魅力を引き付けてしまった。過去一九六四年全岳連隊が初登頂に成功した功、一九七五年のタウラギリIV峰では、七二年の岳連隊から続き参加した八木原團明はその成功への道を開いた。そして本年日山協K2登山隊へも、鷗翔上越支部、宇部明が参加して近々日本を出発の子定となつております。

とにかくこのような形で、第二回目的群馬岳連遠征隊は行動を開始したのです。そして群馬岳連の大事業のひとつとなるであろうこの遠征も、今後、出発までの作業を山と控えており、実行委員会の設立、後援会正式な隊員公募、及び選考、資金作り、登山方法の研究、装備、食糧の研究、集金等、しかしこのような行動以前の作業を消化する事により、ヒマラヤ遠征は登山の総合的な意味を持つ事を知らしめてくれ、ひとつの組織の強化をはかってくれるのではないだろうか、もちろんそれには岳連全体の協力が得られなければ意味は有りませぬが……。

とにか、登山の最大の魅力は「おこがれ」にあるはずす。群馬県は谷川岳をその最大のニユースとして持つており、その暗いイメージはけっして健全な登山の方向ではないと思えます。高きを求め、未知を知る……事を知らしめる事が、これからの若者に対する真の指導ではないかと信じます。

そして今回の計画を成功へ導くには、岳連傘下の各会員諸氏の協力がぜひ必要であります。桐生山岳会 東高リター他七名は、一月一日剣岳小尾根二〇〇米付近にテント二張りで設営二日雪、テント付近新雪四〇センチ位、ミヤマ山岳会との定時交信を馬場島で傍受し、「大雪が予想されるので他パーティーは下山したが桐生はどうするのか?」との問い合せにテント内で進退の協議を始めた、他のテント内に二名の者が残り、そのなかの林がスコップでテント周辺の除雪を始めた。

それは絶頂というのではなく何かにおどろいたような感じの声だつた。この声で全員外にとび出してみると白杖側の雪庇が脱落して、伊勢崎山岳会 田島リター他二名、三十一日雪、五、六のころを出発、北尾根前穂高吊尾根は雪庇を注意しながら後線通しに進む岳沢からの吹き上げが強い。……暗くなって足元が見えにくくなった頃、奥穂高山頂直下と思われる所に着く。

栗原・岡本を休ませ、ライトを出して雪洞を掘る所を見つめるべく十米程進み、露岩の右手に決めた。南アを除いてすべて悪天が続き計画を遂行出来たのは数少ない状態を終った。二件の事故報告は、各会の報告が終了した後、特別に報告しても構いません。その時は雪洞の位置の方に気が向いていたので、ただ(俺のトレル通しに)と言つて、また雪洞を掘り始めた。

その二、三秒後だつたらうか、(田島さん栗原が落ちた)と言う叫び声に振り向くと、岡本が一人雪の上立っていた。

直ぐに行つて見ると、岡本の指す雪稜の先が三十センチ位かけて見えない、何度もコールしてみたが全く応答がない……。

以上がそれぞれの事故までの報告書の一部です。この記事は参考になり、遭難を繰り返さないよう注意されたい。

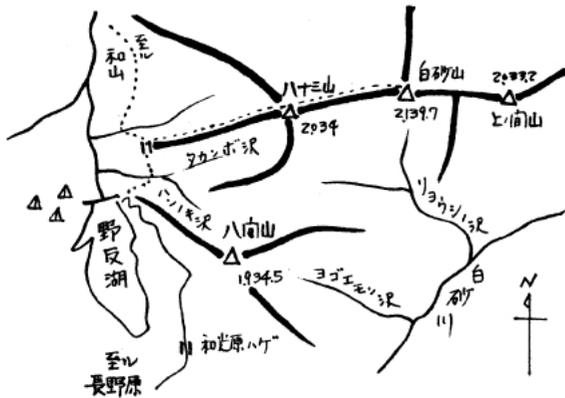
冬山合宿報告会

日時 一月二十四日 六、三〇
場所 体協会館
参加者 前橋 伊勢崎 登高会 太田・野山の会・群大・埴町・藤

吾妻のかくされた山として、白砂山を紹介したい。山名は白砂山(シラスナヤマ)と書くが、(シラス)と呼んでいる。

白砂山は、群馬・長野・新潟・三県の分岐点にその山頂を持ち、県境は、山頂よりそれぞれ三國峠と苗場山とに続いている。

白砂山が、三國境の山、三國山であったと思はれるが、昔より狩鹿の密猟に、土地の獵師が季節を見て、やっと入るほどの山だった。戦後の昭和二十六年に、四方温泉から、木根宿(キネジユク)昔の五万分の一地図にこの字がある)の谷に入って、白砂山登頂を計画し、四月上旬に一行四名にて実行したが、木根宿の奥の沢を登った稜線で、霧のために敗退した。翌二十七年には慎重に用意し、



かくされた山⑥

白砂山

吾妻山岳会

天候の安定するのを待つて一気にタカンボ沢を遡行、八十三山(堂岩山)へ出てスキーをデポし、輪カンジキで白砂山登頂に全員成功したのだ。

当時、木根宿からも、野反池や、夏は笹と石楠花の原生林で、歩くことが出来なかつたために、此等が雪に覆われた季節を選んだの山行だった。

現在は、野反ダムによって野反湖が出来、車道も通つたので野反湖までは車でドライブの人も多く更に白砂山への県境尾根も、地元六合村(クニムラ)の協力によつて山歩きの出る道となつた。

野反より、タカンボ沢を渡り、地蔵峠へ出て、長野・群馬の県境尾根を東に登り、八十三山山頂に出ると西方に巨大な岩菅山の連峰南遙かに、浅間・妙義、南東に榛一ター三名を雇い、前年と遙か日光白根、その左に上州武尊と展開する。

四月一日より一行八名、ポ名連山、そして赤城と続き、東手前に十二ヶ岳・子持山、その上に遙か日光白根、その左に上州武尊と展開する。

眺望を楽しみつつ山頂迄、野反より和光原をより約四時間で到達する。白砂山登り、峠の最後の登りにかかる手前の群馬県側岩壁には、当会発足の原動力つ、野反(となり、常に会をリードした前会長、故金沢 淳氏の言葉が銅版でと云つた)へはめ込まれている。

雪を見て雪山を想い、風の音に風の山を考へる。白砂山は海拔二二九九米、野反より四時間の行程は可成厳しいところから、手近に登れる山と違つた、亜高山帯の山らしい山である。途中針葉樹林帯や、木々にさがる



地蔵峠方面より白砂山頂を望む

サルオガセなどもそれを知らせてくれる。山を愛する人のための山として

吾妻山岳会紹介

昭和七年、当時の山岳、地誌に興味を持つ教師。歴史学者・新聞記者、地元青年等二十余名にて発足、それまでほとんど知られていなかった。吾妻の山野を跋渉し、その記録を吾妻郡誌追録に残した。戦後、昭和二十五年、此等諸先輩の後援により、若い人達によつて、吾妻山岳会として再発足、当時未だ登山器具・衣類、食料等も少ない中を努力し、昭和二十七年

四月、積雪期の白砂山登頂に成功し、県下に吾妻山岳会在り、の名をなした。

現在も白砂山・稲包山・四阿山・浅間穂山・上州武尊山等地味な山行を続け、又町の公民館・教委と連絡し町民に山を知つてもらつための町民ハイイク・町民歩行運動などにも協力している。

海外登山 研究会報告

去る三月二十六日(土)と二十七日(日)の二日間にあたり、第三回(昭和五十二年度)海外登山技術研究会が赤城山・緑風荘にて開催された。

今回の第一日は、田中祥治氏による「ネパール登山へのアドバース」と、昨年大きな成果をあげた山岳同志会の「ジャヌー北壁」の報告が小川信之氏により行われました。第二日は関澤司氏から「ナンダ・デウィ初縦走」の報告をして戴きました。

従来の「ヒマラヤ登山大遠征」というイメージから脱け出て、まず最初は国内での合宿の規模を少し大きくした程度でヒマラヤ登山を実行し、より多くの登山者がヒマラヤを経験できるようにし、安い費用で短期間に気軽に行ける方法を考えよう。というテーマの意義ある会合であった。

又自然を生かすための大切な山として紹介したい。

岳連行事予定

- 五月 連休谷川岳パトロール
 - 29 救助隊新隊員訓練
 - 29 一般対象救助訓練
 - 22 雪上技術講習会(一ノ倉)
 - 六月 中旬天気図講習会(二日間) 体協会館
 - 19 国体成年男子予選(谷川岳)
 - 18 19国体少年少女予選(谷川岳)
 - 七月 谷川岳山びらきパトロール
- 以上の行事計画は各部で提案され理事会で承認が得られたので、暫定的なものとして実施されます。

山の好きな男のセトモノ店

井 大 井

県庁通り 前橋ビル ☎0272-21-1678(代)
卸部 前橋市問屋町 ☎0272-51-1000(代)

夏山用品 特売中

山とスキーの店

有限会社 石 井

伊勢崎市中央町18番8号
TEL 0270-25-0272



—あこがれと不安を抱いて— 女子雪氷クラブ 安中 秀子

冒頭をお借りして、お世話になつた皆様に、心から感謝申し上げます。後で調べたら、15ルビー程上のせ料金行けない、できないと、その程度自分を宥めてきたけれど、ある日、ふと、その押えが効かなくなつて、夢はどんどん膨らんでいつた。立派な理論は並べられないし、遠征隊程、対外的な説得力もない。ただ大きな山域に接してみたいという願望だけがあった。幸い賛同してくれる友を一人見つけられ、行動開始の運びとなった。

あこがれと不安の交雑する中で一年が過ぎ、九月三十日、私達を乗せた飛行機はバンコクへ向けて羽田を飛び去つたのである。翌十月一日、澄んだ空と緑の美しいカトマンズ盆地に到着。日本の昔の倉を思わせるような家々、地層なりに耕やされた田畑、右に左にキョロ／＼しながら、一先ずミの入手を済ませ、十時ごろシェ

七日、ボカラに行く日本人五人が共同して、ランドローバーを一台頼む。二人分と荷物分四八〇ルビーなり。夕方、スクールの上つたボカラのホテルから、雪をかむつた山が、紅く染まるのを見た時胸がドキ／＼した。その夜、一日三十三ルビー払えと要求するシェルバの賃金を二十五ルビーに抑え、前金百ルビー程渡す。

八日、メンバー二名、シェルバ一名、ポーター三名連れ立ってテリツオを目指す。十七時ごろ、スイケツトで雨に降られ、そのま

二日、街全体が血生臭いカトマンズを散歩。水牛や山羊の首が神に捧げる為にカットされる。信仰を持たない私達にはとても理解できそうもない。

六日、前日にビザ延長とトレバミの入手を済ませ、十時ごろシェ

十日、ネパールにはヒルがいると言われたが、ウレリの近くでついにやられた。気が付くと足も靴も真赤、痛くはない。土踏まずの所に太ったヤツが一匹、死刑にしてやつた。

ウレリで宿の窓から外を眺めていて発見をした。きれいな板状節理の屋根石、むだのないことの美しさ、そして十月の空に咲く桜。

十一日、最近、日本人が殺されたと言ふジャングルを通つて、ゴ



アンチブルナサウス(7,219m) 於 ウレリ切

ラバと会う。一人は大使館へ行き残りは道具を揃える。午後、食料の買い出しをしたら、荷は籠三つになった。テリツオ湖に行く為、コンロや大きなテントも持参する。

ラバニの開拓農場へ着く。大きなキャベツが妙に心に残っている。そして郵便局と学校のあるシーカ村へ、対面の段々畑が目に入る。二・三条で一杯になりそうな畑が幾重にも連なっており、作目は米から次第にアワとなる。

ビンと呼ばれる竹を交叉して作った大きなブランコに乗って子供達は元気に大空へ飛びだして、いく庭先で母親と姉嬢が毛を紡ぐ。時おり自分の母が話す、戦前の日本のイメージだ。

十二日、三時間程シーカを下り込むと、地元の人々がジャバニーズハウスと呼んでいるタボニの宿に着く。日本人向けにアレンジしてあるおいしい食事がうれしい。歩きながらポーター達にネパール語などを教わり、結構楽しく過してはいるのだが、折りに触れ話題になるのは、食事のことと金のこと、そして気の合わないシェルバの悪口ばかり、我ながら思考の低俗性を嘆く。

松林のきれいな高原状のカロパニを過ぎると、ラルジュンあたりから景色が極端に変化して来る。カリガンタキの広い河原、まるで砂漠を連想させる荒涼とした土色の世界、僅かに残つたとうもろこしと収穫過期のソバ畑だけが辛うじて生きてる事を知らしめているように思えた。

十五日、トクチュからマルバへ日本人が何かの本に、ここを女郎の村と書いて反日感情をかきたて聞いたが、そんな気配はなかった。そして問題のジヨムソン・チュ

ツクポスト、幾つかの質問に答え、その後、テリツオに行きたい旨を伝えたと、俄に顔を硬ばらせた。数人でゴソ／＼やっていたが返事はノー。長い間の計画だから是非通して欲しいと連れが訴えた。一人のネパール人が我々を連れて隣人の建物へいき、偉そうな人にかわ

I am sorry I can't see you OK. 今考えると、もつと粘れば良かったのかも知れないが、あの時私達はあきらめてしまった。

川の向こうの、あの峠さえ越えれば目的が達せられるのに、湖はもう目と鼻の先の先に。しばらく二人でしよけていた。でも、又きつと行ける日が来る。

三月六日谷川岳天神尾根で近年、冬山登山の隆盛は、用具の発達とともに、バリエーションルートからのアタックが試みられ発展してきている。これに伴つた

遭難事故も、困難な場所での発生が多くなつてきている。今冬、群馬岳連内でも二人の行方不明者がでた。群馬岳連遭難救助隊も、この様な事態に対応できる技術をマスターしなければならぬ

トマン・スノーバー・スキー等による雪上における支点的取り方、滑車とザイルによる引き上げ方法、急斜面の雪壁を切つてウインチをセツトし、引き上げ引き降しの訓練を実施した。群馬県警から三人が視察にきて、デューツマンなど

救助隊結団式

昭和三十二年遭難救助隊の結団式が三月二十九日夜、体協会館で行われました。

昭和三十二年隊員紹介
隊長・西山年秋、副隊長・中原正喜、相談役・田中成幸、隊員・塩野隆(沼田) 宇田川邦司(大竹房雄) 松永幸男(加藤定男) 女屋等志(ミヤマ弘行) 千木良一郎(内島正男) 大塚豊夫(沖電白田光男(藤岡) 松原幸雄(須田久男(桐生) 小泉俊夫(前橋) 都丸和芳(下境和芳) 湯沢好夫(阿部 源(大間々) 福田純一(能美沢栄三(伊勢崎) 仁科雅司(阿久沢広(登高会) 丸山正捷(茂木貞太郎) 新井邦光(高崎) 桜井進(太田) 石原重喜(独峰) 茂木稔

初めて見る救助用具の使用方法を説明を熱心に、隊長から受けていた。

救助隊冬季訓練

三月六日谷川岳天神尾根で近年、冬山登山の隆盛は、用具の発達とともに、バリエーションルートからのアタックが試みられ発展してきている。これに伴つた遭難事故も、困難な場所での発生が多くなつてきている。今冬、群馬岳連内でも二人の行方不明者がでた。群馬岳連遭難救助隊も、この様な事態に対応できる技術をマスターしなければならぬ

トマン・スノーバー・スキー等による雪上における支点的取り方、滑車とザイルによる引き上げ方法、急斜面の雪壁を切つてウインチをセツトし、引き上げ引き降しの訓練を実施した。群馬県警から三人が視察にきて、デューツマンなど

住所変更

副会長 赤石 春親
桐生市東三丁目三二の二六の八
〇号十一F
電〇二七七・四四・〇七三四
常任理事 小暮 勝義
伊勢崎市山王町一〇七一
市営一六四八号
電〇二七〇・二四・九一四七

婚礼引出物卸価格にて奉仕致します
贈答品・記念品・引出物
株式会社 丸 興
御一報下されば伺います
高崎市上中居1382
TEL 0273-52-0970(代)

大型写真パネル・風景・撮影
あなたの山行のネガでパネルにしませんか
須田フォート光芸
前橋市総社町植野 225-22
TEL 0272-51-0206

遭難防止活動に寄付金

群馬馬車連の遭難防止活動の一助に、次の方から寄付をいただきましたのでお知らせします。

大島正友さん
 東京都新宿区下落合三ノ十二ノ五
 十五万円 52・7・19 受納
 遭難防止対策基金として。
 大島さんは、昨年七月谷川岳一
 遭難防止対策基金として。

の倉沢で亡くなられたご令息の
 香志の一部を、遭難防止に役立つ
 ようにと、呉観光課に寄付を申し
 出されたものです。

故人のご冥福をお祈りすると
 もに、この尊い善意に感謝しなが
 ら、なお一層遭難防止に心掛け
 たいと思います。 事務局

岳界通信

氷雪技術講習会

指導員会
 松木沢(足尾) 支流の黒沢
 二月二十七日 参加者四十名
 異状寒波も中アルミとなった、
 二月末の松木沢は氷もゆるみ、快
 適な状態ではなく、参加者も苦勞
 したようであった。

講習は、初心者から上級者にか
 けてクラス別の技術指導が実施さ
 れたが、不幸にも上部で刺刺し
 た氷塊が、下部の氷に居た、中根
 義光君(藤岡)の顔面に当り、一
 週間の入院というケガをしてしま
 った。半月間の休職で正常に回復
 したことは不幸中の幸であった。

この件については、指導員会及
 び常任理事会に於いて、藤岡山岳
 会(三越代表他四名)員の参加を
 得て、各々反省会を行ない、今後
 の対策について話し合った結果、
 講習会の内容とレベルの徹底と安
 全対策について万全の策を講じる
 ことが確認された。

当日は、鎌木まり子(太間々)氏
 を始め参加者の皆さんに協力を頂
 きましたことを厚くお礼申し上げ
 ます。

頂きました。
 次回もより盛大な新年会になる
 よう、多数の参加を希望します。

ギヤチユン・カン峰に遠征隊
 海外登山研究会

海外登山研究会ではかねてより
 「ダウラギリIV峰」遠征に続くも
 のとして研究を進めてきましたが
 当初の計画にあった、カラコルム
 を諸般の状況を検討した結果、ネ
 パールの「ギヤチユン・カン」七
 九二二米に決定し、来年のポスト
 モンスーンの七月から十一月の子
 定で遠征隊を送ることにになりまし
 た。

一月の理事会で提案され、了解
 事項として、四月の理事会で正式
 決定されたので、直ちに実行委員
 会を設置し具体化することになり
 ますが、岳連の皆様方には、再度
 格別のご協力をお願い致す次第で
 す。尚この計画は、ネパール国と
 の合同隊となる予定です。

冬山遭難二件発生
 悪天に見まわれた正月合宿では
 各地で遭難が連続し、岳連関係で
 二件二名の遭難事故が発生してし
 まいました。

伊勢崎山岳会 栗原栄一君
 十二月三十一日午後七時、奥穂高
 岳直下の吊根根から瀧沢に転落。
 桐生山岳会 林 育夫君
 一月二日午前七時三十分、剣岳小
 窓根根二〇〇米BCより白萩川
 三ルンセ方向に転落。
 二件共に行方不明です。

定例の岳連合同新年会が二月十
 九日に赤城山国民宿舎「緑風荘」
 で理事会・指導員会・救助隊・海
 外研究会より四十余名の参加を得
 て、深夜まで飲み、語り明かし、
 翌日はスキーに、ワカサギ釣
 りにと楽しい一時を過ごしました。
 尚、群馬県観光課より御芳志を
 して戻りました。これは三月末

のリーダー講習会の予備調査を兼
 ねたものでした。

三月二日から三泊四日で前記
 講習会が尾瀬あやめ平周辺で行な
 われ、各校顧問生徒二五〇名が参
 加しました。岳連から高橋啓太郎
 氏を講師に迎え、高体連所属の指
 導員が協力しました。例年に比べ
 て雪がよく降り、夏山の雪渓
 上のトラバースや登り下りの訓練
 を頭においての歩行は意義があり
 ました。富士見小屋に宿をとり、
 白尾・あやめ平方面に足を伸ばし
 歩行の他、雪洞、イグルーの構築
 寒さに対する備え、救急法につい
 ても基本的な技術を学びました。

奥利根地域学術調査報告書
 第二集完成

一昨年に続き奥利根環境保全課で実
 施した、奥利根地域学術調査の報
 告書が完成し、発表されました。
 この調査報告書は、昨夏、本
 流の調査を実施したため、隊長
 は小林三雄(松井田) 隊員には
 田中成幸(登高会) 上原剛(松井
 田)の各氏が参加し、その活躍が
 記されています。

高体連行事から
 さる二月十八日から二泊三日の
 日程で、高校登山部顧問を対象に
 した冬山指導者講習会が尾瀬で行
 なわれ、各校から二八名が参加し
 ました。今年は新しい試みとし
 て、自分達で雪洞を掘り、そこに
 泊る体験を積もうというこで、
 戸倉から田代原を経て、あやめ平
 雪下近くの斜面に雪洞、イグル
 ーを掘りました。講師として石井
 謙一郎・田中成幸氏を迎え、翌日
 は晴天の中をあやめ平までツアー
 をして戻りました。これは三月末

救助隊員表彰さる
 三月二十九日の救助隊結団式の日
 に、五年以上救助隊員として貢献
 の感謝状が贈られました。

感謝状贈呈者(敬称略)

西山千秋(沼田) 木内健一郎(沼
 田) 笛木友二(沼田) 大竹房雄(沼
 田) 青木睦佳(沼田) 中原正喜
 (ミヤマ) 女屋等志(ミヤマ) 高橋清
 (ミヤマ) 田中成幸(登高会) 阿久沢
 広(登高会) 登坂勇(登高会) 徳田
 勉(登高会) 新井邦光(高崎) 木
 暮正記(高崎) 桜井進(太田) 生
 田三郎(太田) 大沢博(独峰) 小
 泉俊夫(前橋) 内田光男(富士重
 国体監督
 高橋啓太郎氏推挙される

今年度の青森国体に参加する、
 登山部門の監督は、高橋啓太郎氏
 (群馬カモシカ山岳会) が推挙さ
 れ、四月十三日の理事会に於いて
 承認されました。

今回から、少年女子部門が増し
 たので、三チームとなり監督も大
 変ですが、活躍されることを
 期待します。

救急法講習会開かる
 四月十五日(金)午後七時より
 県営弓道場に於て、実践的と銘打
 った救急法の講習会が行われた。

指導員会・遭難救助隊、それに一
 般の三者合同による会合であった
 ため会場一杯に受講者が溢れた。

講師の剣持勝美氏によるユーモ
 アあふれる説明に会場は笑いの渦
 が巻いて楽しい一時となった。

止血法・バンティ・ストッキン
 アの使用法、捻挫・骨折の手当・人
 口呼吸法の四つからなる講義であ
 ったが、止血法と人口呼吸法は動
 作の習熟が必要であるとの印象を
 持った。三十五分七秒の投ボ

子算に関連して救助隊の性格及
 目的などについて討論される。
 海外登山研究会 五三年の海外
 遠征計画を、ネパールのギヤチ
 ユンカン峰(七九二二)に決定した
 のでこれを承認されたいとして、
 理事会で承認される。

尚これに関して実行委の設置を
 要望するも、具体案を研究会で立
 案し次回提案することにする。

編纂部 会報の発行は第十号
 第十三号までの発行を予定。
 企画部 一般を対象とした、自
 然探勝会を実施し、高山植物や美
 しい景観に親しむ行事及び、日山
 協の補助事業の推進を計画。以上

理事会報告
 四月定例理事会は、四月十七日
 体協会館に於いて実施されました。
 各部の五十二年行事計画案の審議
 だるうか」などということが気が
 かりです。新鮮な紙面と多角的な
 編集方針を常に考えてはいますが
 業人の集団故、仲々うまくいかな
 いようです。

もより登山は、体力や技術の
 向上もさることながら、「考え・
 読み・書き・知る」などというこ
 とも大切な要素です。この小さな
 会報が、県下山岳愛好者のマスマ
 デアとして生きつづけていくこ
 とを念じてつづけていくこと
 を念じてつづけていくこと
 (M・K)

編集後記
 嶺呂の発行も、昭和四九年十月
 に創刊号が出てから、今回でよう
 やく十号になった。各方面、関係
 各位の支援で、「何とか」今日まで
 続いているわけですが、編集者に
 とっては、やはり「どの程度読ま
 れているのだろうか」「會員の皆
 さんの所にきちんと届いているの
 だろうか」などということが気が
 かりです。新鮮な紙面と多角的な
 編集方針を常に考えてはいますが
 業人の集団故、仲々うまくいかな
 いようです。

編纂部 会報の発行は第十号
 第十三号までの発行を予定。
 企画部 一般を対象とした、自
 然探勝会を実施し、高山植物や美
 しい景観に親しむ行事及び、日山
 協の補助事業の推進を計画。以上

理事会報告
 四月定例理事会は、四月十七日
 体協会館に於いて実施されました。
 各部の五十二年行事計画案の審議
 だるうか」などということが気が
 かりです。新鮮な紙面と多角的な
 編集方針を常に考えてはいますが
 業人の集団故、仲々うまくいかな
 いようです。

もより登山は、体力や技術の
 向上もさることながら、「考え・
 読み・書き・知る」などというこ
 とも大切な要素です。この小さな
 会報が、県下山岳愛好者のマスマ
 デアとして生きつづけていくこ
 とを念じてつづけていくこと
 を念じてつづけていくこと
 (M・K)